

⑥ 自然言語処理ソフトウェア

(発表者：ICOT研究所 第6研究室 田中 裕一)

質問：インペリアル大学のボブ・コワルスキーです。世界中で行われている他のプロジェクトとの比較で評価していただきたいのですが。

回答：性能や速度についてですか。

質問：言語処理のレベルの高さです。

回答：構文解析と生成についてはいろいろなプログラムのお話をいたしました。例えば、パーザを例にとってみましょう。BUP(Bottom Up Parser)は初期段階のボトムアップ型パーザで、Prologで書かれていてインプリメントが容易にできるものです。しかし、SAXは実験的なパーザではなく、PSIマシンで動くことを目的として作られた最初のパーザです。また、現在はUNIXマシン上でも動いています。PSIマシンのSAXと比較すると非常に高い性能を示しています。生成に関してですが、テキスト生成にはそれほど多くの生成システムがあるわけはありません。多くの生成システムは、センテンス生成の目的で作られています。しかし、私

どもの生成プログラムは、むしろパラグラフ生成、フルテキスト生成を目的にしています。これはまだ実験的なバージョンですが、並列処理に対するシステムとしては希なものでしょう。

座長：多くのものをまとめる統合化アプローチを率先しているということでしょうか。

質問：人間が日本語を通訳する場合には、通訳者は並列処理をしているのでしょうか。

回答：たとえば英語から日本語ということでしょうか。それにつきましては、かなりの論議がなされています。私どもは、人間の処理をシュミレーションするアプローチはとっておりません。人間の処理方法を分析することは簡単ではないからです。

質問：英語用のものもお持ちですか。

回答：申し訳ありませんが、ありません。構文解析用のいくつかのツールや知識表現言語は英語に限らずその他の言語にも使えます。